

2015年度2年次の学修活動に関するアンケートの結果（報告）

IR センター教育情報分析室・FD 委員会

I. アンケートの概要

2016年1月から2月に1年生を対象にユニパのアンケート機能を用いて実施した。アンケートは、回答者の属性、施設・設備等の利用状況、学びの充実度、学士力・教育目標の達成と意欲の伸び（以下、学士力等の伸び）、諸活動に費やす時間、教育に対する満足度に関する項目より構成されている。157名の回答が得られた（回答率12.1%）。

II. 全体の傾向

1. 回答者の属性と施設・設備等の利用状況

回答者の学科構成を表1-1、属性を表1-2に示す。

表1-1 学科

学科名	度数	%
社会福祉学科	41	26.1
社会教育学科	21	13.4
福祉心理学科	24	15.3
産業福祉マネジメント学科	12	7.6
情報福祉マネジメント学科	13	8.3
教育学科	25	15.9
保健看護学科	8	5.1
リハビリテーション学科	7	4.5
医療経営管理学科	3	1.9
判別不能	3	1.9
総計	157	100.0

表1-2 属性

項目	カテゴリ	度数	%
性別	男性	52	33.1
	女性	105	66.9
入試形態	A0入試	13	8.3
	推薦入試	48	30.6
	一般入試	76	48.4
	センター入試利用	20	12.7
部・サークルの所属	無	30	19.1
	有	127	80.9
ボランティア活動	無	47	29.9
	有	110	70.1
海外留学	無	153	97.5
	有	4	2.5
アルバイト経験	無	27	17.2
	有	130	82.8
インターンシップ	無	138	87.9
	有	19	12.1
学外実習	無	124	79.0
	有	33	21.0
外部テスト	無	132	84.1
	専門知識・技能の検定試験	18	11.5
	語学能力検定試験	7	4.5
キャリアデザインII	無	148	94.3
	有	9	5.7
産学官連携授業	無	144	91.7
	有	13	8.3
単位互換の活用	無	149	94.9
	有	8	5.1
実学臨床教育 (総合福祉学部のみ)	無	82	95.3
	有	4	4.7
副専攻の履修 (保健看護学科、リハ学科除く)	無	126	90.6
	有	13	9.4

2. 施設・設備等の利用状況

施設・設備等の利用状況を表 2-1 に示す。

表 2-1 施設等の利用状況

		なし	たまに	ときどき	頻繁に
図書館	度数	10	31	67	49
	%	6.4%	19.7%	42.7%	31.2%
美術工芸館	度数	132	20	4	1
	%	84.1%	12.7%	2.5%	0.6%
キャリアセンター	度数	94	41	16	6
	%	59.9%	26.1%	10.2%	3.8%
保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	度数	93	52	10	2
	%	59.2%	33.1%	6.4%	1.3%
ラーニングcommons	度数	30	31	31	65
	%	19.1%	19.7%	19.7%	41.4%
語学・異文化学習支援室	度数	144	10	3	0
	%	91.7%	6.4%	1.9%	0.0%
外国人教員との交流	度数	99	18	25	15
	%	63.1%	11.5%	15.9%	9.6%
留学生との交流	度数	136	15	5	1
	%	86.6%	9.6%	3.2%	0.6%
オフィスの利用	度数	134	12	9	2
	%	85.4%	7.6%	5.7%	1.3%
リエゾン・ポートフォリオの利用	度数	56	59	28	14
	%	35.7%	37.6%	17.8%	8.9%

次いで、授業履修時の履修モデル・履修系統図の活用等について表 2-2 に示す。

表2-2 履修モデル・アンケート等の活用

		参考にしな かった	あまり参考に しなかった	まあまあ参 考にした	かなり参考 にした
履修モデル・履修系統図の活用	度数	16	35	78	28
	%	10.2%	22.3%	49.7%	17.8%
ルーブリック評価の活用	度数	64	61	26	6
	%	40.8%	38.9%	16.6%	3.8%
GPAの活用	度数	38	52	51	16
	%	24.2%	33.1%	32.5%	10.2%
学習成果のフィードバックの活用	度数	55	63	34	5
	%	35.0%	40.1%	21.7%	3.2%
学生アンケート・授業評価アンケートの活用	度数	31	60	53	13
	%	19.7%	38.2%	33.8%	8.3%
卒業生アンケートの活用	度数	75	51	27	4
	%	47.8%	32.5%	17.2%	2.5%

続いて、所属する学科の教育目標とディプロマ・ポリシーの認知状況について表 2-3 に示す。

表2-3 教育目標、ポリシーの認知

		知らない	あまり知らな い	まあまあ知っ ている	かなり知っ ている
学科の教育研究上の目的・教育目標	度数	24	63	60	10
	%	15.3%	40.1%	38.2%	6.4%
学科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	度数	24	70	57	6
	%	15.3%	44.6%	36.3%	3.8%
大学の学修成果の方針(アセスメント・ポリシー)	度数	23	63	64	7
	%	14.6%	40.1%	40.8%	4.5%

3. 学びの充実度

1年次の学びの充実度について図1に示す。なお、これら9項目は「かなり充実していた」を4、「充実していなかった」を1とする4件法にて回答を求めており、平均値2.5以上であることが充実を示す1つの基準となる。充実度の高い項目として示されたのは「リエゾンゼミⅡ」「大学生活全般」及び「アクティブラーニング」であった。逆に充実度が低く示されたのは「キャリア教育」であった。

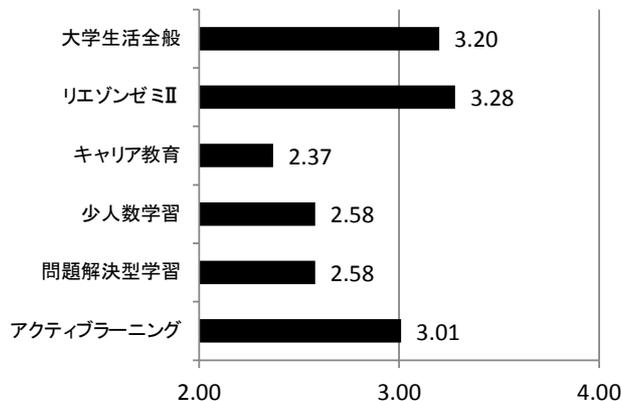


図1 2年次の学びの充実度

4. 学士力等の伸び

2年次進級時と比した学士力等の伸びについて、項目順にまとめたものを図1-1、程度順にまとめたものを図1-2に示す。全ての項目が平均値3.5以上（伸びたことを意味する、「非常にそう思う」を6、「まったくそう思わない」を1とする6件法）であった。特に「学科の専門的知識・技術」「社会規範の順守」「他者との協働・協同」「学習意欲」に関する伸びが大きいことが示された。一方で「分析・解決」「レポート表現」に関する事項は小さい伸びの程度となっていた。どちらも過年度と同様の傾向が示されていた。

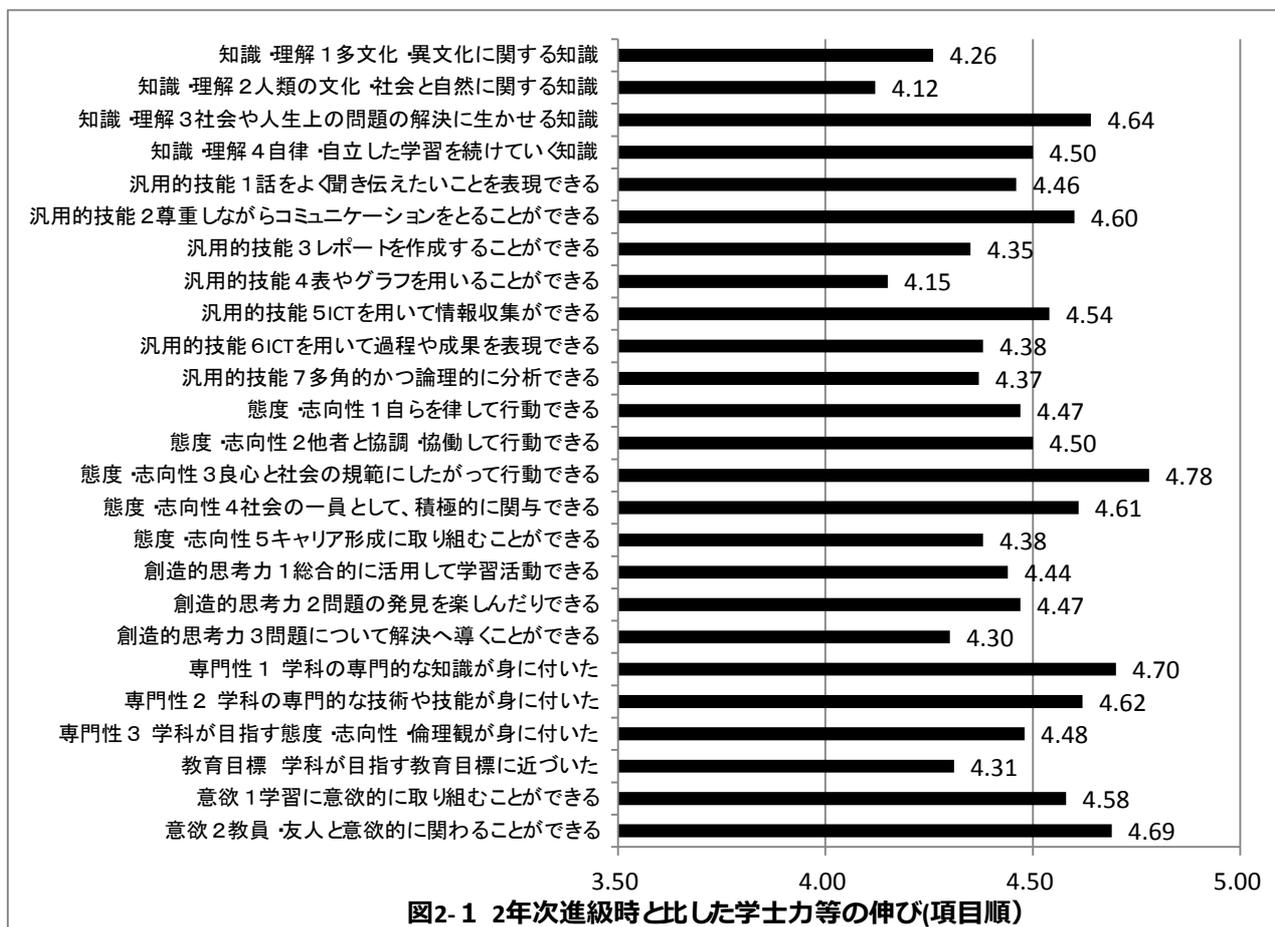
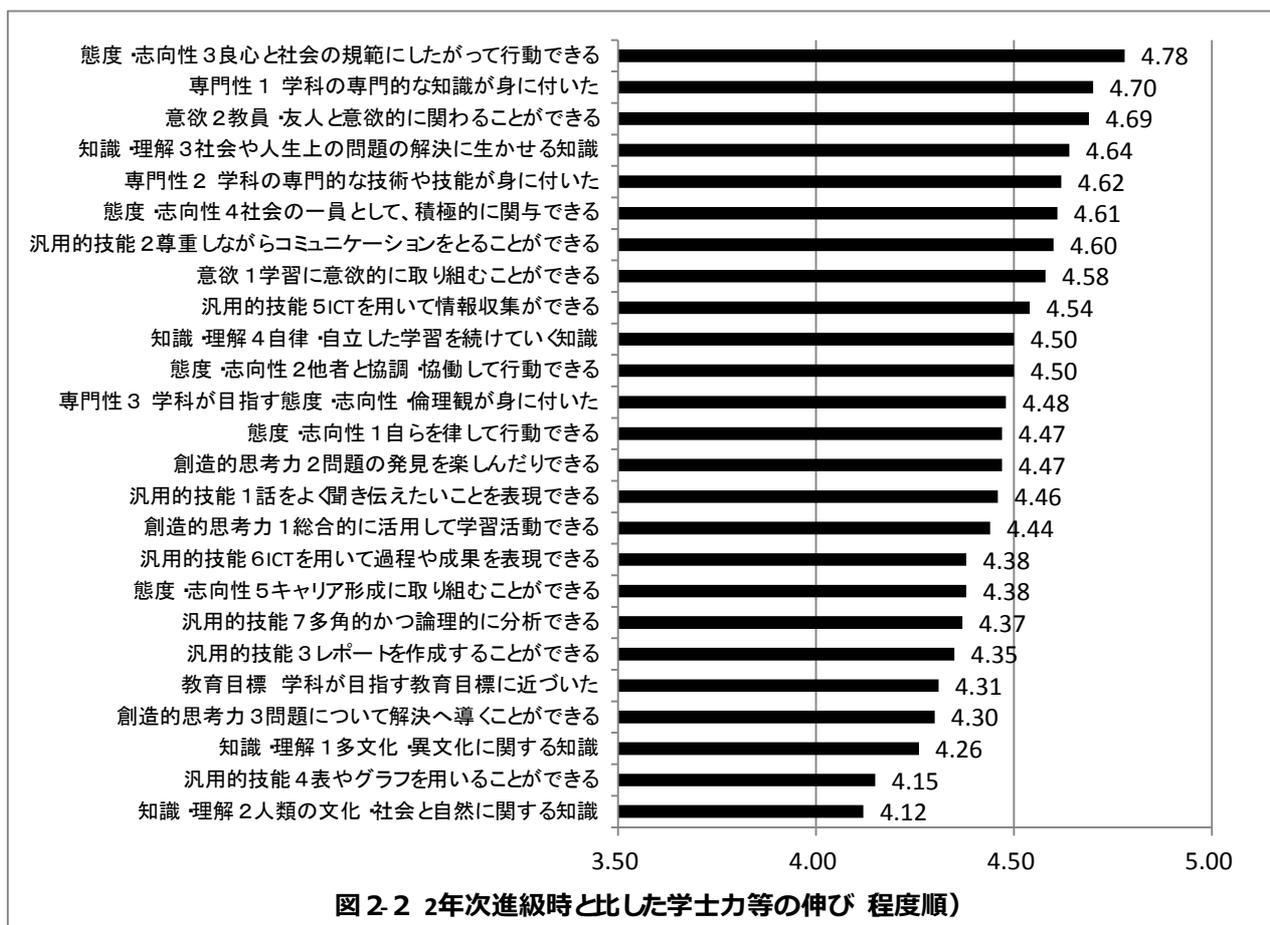


図2-1 2年次進級時と比した学士力等の伸び(項目順)



5. 諸活動時間

1 週間当たりの諸活動にあてる時間について表 3 にまとめた。各項目において割合上位の 2 つの時間帯を太字にしている。

表 3 2年次の1週間あたりの諸活動時間

		0時間	1時間未満	1～3時間未満	3～6時間未満	6～11時間未満	11～16時間未満	16～21時間未満	21～26時間未満	26～31時間未満	31時間以上
授業に出席する	度数	1	2	2	8	8	11	27	36	27	35
	%	0.6%	1.3%	1.3%	5.1%	5.1%	7.0%	17.2%	22.9%	17.2%	22.3%
履修している授業の予習や復習をする	度数	3	34	51	33	18	12	2	3	1	0
	%	1.9%	21.7%	32.5%	21.0%	11.5%	7.6%	1.3%	1.9%	0.6%	0.0%
大学の授業・予習・復習以外の学習（読書など）をする	度数	21	50	49	18	9	6	0	1	1	2
	%	13.4%	31.8%	31.2%	11.5%	5.7%	3.8%	0.0%	0.6%	0.6%	1.3%
部活・サークル活動をする	度数	34	24	51	17	11	6	9	1	1	3
	%	21.7%	15.3%	32.5%	10.8%	7.0%	3.8%	5.7%	0.6%	0.6%	1.9%
ボランティア活動をする	度数	62	28	40	18	4	2	0	2	1	0
	%	39.5%	17.8%	25.5%	11.5%	2.5%	1.3%	0.0%	1.3%	0.6%	0.0%
アルバイト仕事をする	度数	35	7	10	15	26	26	14	9	5	10
	%	22.3%	4.5%	6.4%	9.6%	16.6%	16.6%	8.9%	5.7%	3.2%	6.4%
新聞やニュースサイト等で時事問題等の情報をチェックする。	度数	10	53	55	25	8	1	2	2	0	1
	%	6.4%	33.8%	35.0%	15.9%	5.1%	0.6%	1.3%	1.3%	0.0%	0.6%
キャリア形成活動（キャリアセンターの利用など）や就職・進学活動をする。	度数	72	50	25	5	2	1	0	1	1	0
	%	45.9%	31.8%	15.9%	3.2%	1.3%	0.6%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%

6. 東北福祉大学での教育の満足度

1年次の学びの充実度について図3に示す。なお、これら5項目は「非常に満足」を6、「非常に不満」を1とする6件法にて回答を求めており、平均値3.5以上であることが満足していることを示す1つの基準となる。特に「学習支援」「学生生活支援」の満足度が高いことが示された。

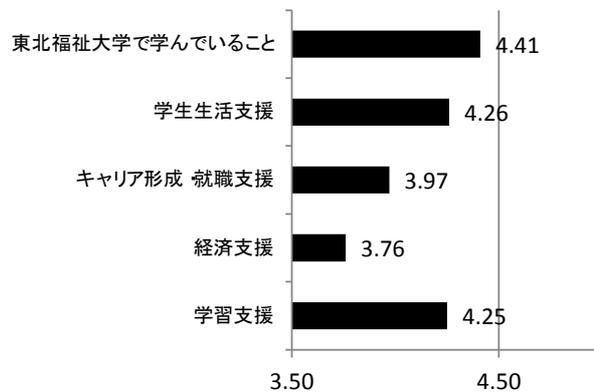


図3 2年次の大学への満足度

7. 属性と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと統計的に有意に関連がみられた属性は表4-1、表4-2の通りであった。海外留学、アルバイト、学外実習など経験をするのが学士力等の伸びに正に関係している項目もあるが、実学臨床教育及び副専攻の履修においては、それらを履修しないもののほうが学士力の伸びを高く示すこととなった。

表4-1 属性と学士力等の関係(1)

		性別	入試形態	部・サークルの所属	ボランティア活動	海外留学	アルバイト経験	インターンシップ
知識・理解	多文化・異文化に関する知識							
	人類の文化・社会と自然に関する知識			無<有		無<有		
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識							
	自律・自立した学習を続けていく知識							
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる							
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる							
	レポートを作成することができる							
	表やグラフを用いることができる					無<有		
	ICTを用いて情報収集ができる							
	ICTを用いて過程や成果を表現できる							
	多角的かつ論理的に分析できる							
態度・志向性	自らを律して行動できる		一般<推薦					
	他者と協調・協働して行動できる			無<有			無<有	
	良心と社会の規範にしたがって行動できる							
	社会の一員として、積極的に関与できる							
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる							
	総合的に活用して学習活動できる		一般<推薦					
	問題の発見を楽しんだりできる							
専門性	問題について解決へ導くことができる							
	所属する学科の専門的な知識							
	所属する学科の専門的な技術や技能							
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観							
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標							
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる							
	教員・友人と意欲的に関わるができる							

表 4-2 属性と学士力等の関係②

		学外実習	外部テスト	キャリアデザインⅢ	産学官連携授業	単位互換の活用	実学臨床教育	副専攻の履修
知識・理解	多文化・異文化に関する知識					無>有	無>有	
	人類の文化・社会と自然に関する知識							
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	無<有						
	自律・自立した学習を続けていく知識						無>有	
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる							
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる							無>有
	レポートを作成することができる							
	表やグラフを用いることができる							
	ITを用いて情報収集ができる							
	ITを用いて過程や成果を表現できる							
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる						無>有	
	自らを律して行動できる							無>有
	他者と協調・協働して行動できる							無>有
	良心と社会の規範にしたがって行動できる							
創造的思考力	社会の一員として、積極的に関与できる							
	キャリア形成に取り組むことができる							
	総合的に活用して学習活動できる							
	問題の発見を楽しんだりできる							
専門性	問題について解決へ導くことができる						無>有	
	所属する学科の専門的な知識							
	所属する学科の専門的な技術や技能	無<有						無>有
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観							
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標							
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる							無>有
	教員・友人と意欲的に関わることができる							

8. 施設・設備の利用と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと統計的に有意に関連がみられた施設・設備の利用は、表5-1の通りであった。特に係数が.20を超えている項目を太字とした。特に「図書館」「ラーニングcommons)」が全般的な学士力等の伸びとの正の関わりを持っていること、「語学・異文化学習支援室」の利用及び「外国人教員との交流」が特に多文化・異文化の理解に寄与していることが示された。

表5-1 学士力等の伸びと施設利用の関係

		図書館	美術工芸館	キャリアセンター	保健室・ウェルネス支援室・学生相談室	ラーニングcommons	語学・異文化学習支援室	外国人教員との交流	留学生との交流	オフィスワークの利用	リエゾン・ポートフォリオの利用
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.19*				.22*	.25**	.23**			
	人類の文化・社会と自然に関する知識										
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識					.29**					
	自律・自立した学習を続けていく知識	.20*				.28**				.22**	.18*
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.19*									
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.30**				.32**				.17*	
	レポートを作成することができる	.22*		.19*		.18*		.21*		.22*	
	表やグラフを用いることができる	.24**				.25**			.18*		
	ITを用いて情報収集ができる	.19*	.17*			.19*					
	ITを用いて過程や成果を表現できる	.18*									
態度・志向性	多角的かつ論理的に分析できる	.31**				.31**				.19*	
	自らを律して行動できる	.24**								.17*	
	他者と協調・協働して行動できる	.22**				.19*					
	良心と社会の規範にしたがって行動できる										
創造的思考力	社会の一員として、積極的に関与できる										
	キャリア形成に取り組むことができる			.22*		.23**					
	総合的に活用して学習活動できる	.28**				.21*					
	問題の発見を楽しんだりできる	.18*				.22*	.19*			.19*	
専門性	問題について解決へ導くことができる	.30**				.21*					
	所属する学科の専門的な知識	.20*				.33**					
	所属する学科の専門的な技術や技能	.26**				.30**					
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.25**				.26**					
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.26**			.20*						
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.19*				.18*					
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.19*								.20*	

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

続いて、学士力等の伸展と履修時のシラバス・履修モデル・履修系統図の活用の関連について表 5-2 に示す。これらより特に「GPA、学習成果のフィードバック、学生対象の各種アンケート」の活用と学士力等の伸びに正の関連が示された。

表5-2 学士力等の伸びと履修時の参考の程度の関係

	履修モデル・履修系統図の活用	ルーブリック評価の活用	GPAの活用	学習成果のフィードバックの活用	学生アンケート・授業評価アンケートの活用	卒業生アンケートの活用
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.19*	.18*	.32**	.29**	
	人類の文化・社会と自然に関する知識		.33**	.27**	.36**	.27**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.19*		.18*	.22*	.17*
	自律・自立した学習を続けていく知識	.20*		.21*	.26**	.27**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる			.26**	.18*	.22*
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			.30**	.21*	.27**
	レポートを作成することができる		.29**	.27**	.33**	.29**
	表やグラフを用いることができる		.25**	.41**	.40**	.34**
	ITを用いて情報収集ができる	.29**	.24**	.26**	.27**	.20*
	ITを用いて過程や成果を表現できる	.22*	.33**	.34**	.30**	.20*
	多角的かつ論理的に分析できる	.22**	.30**	.35**	.30**	.28**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.19*	.31**	.37**	.36**	.17*
	他者と協調・協働して行動できる		.23**	.26**	.30**	
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.19*	.31**	.23**	.29**	
	社会の一員として、積極的に関与できる	.24**	.28**	.24**	.25**	
キャリア形成に取り組むことができる	.22*	.40**	.37**	.38**		
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	.20*	.30**	.38**	.30**	.28**
	問題の発見を楽しんだりできる		.21*	.31**	.26**	.19*
	問題について解決へ導くことができる		.31**	.36**	.28**	.23**
専門性	所属する学科の専門的な知識		.18*	.29**	.33**	.32**
	所属する学科の専門的な技術や技能		.18*	.24**	.32**	.31**
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.18*	.19*	.19*	.29**	.21*
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標		.21*	.25**	.35**	.34**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.17*	.29**	.29**	.33**	.34**
	教員・友人と意欲的に関わることができる		.21*	.21*	.32**	.17*

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

学士力等の伸びと履修時の学科の教育目標等の認知の関連について表 5-3 に示す。これらより、大学・学科の教育目標や各種ポリシーを理解し学習に取り組むことが「他者との直接的なコミュニケーションに関わるために必要な力」を除いた学士力の伸びと関連することが示された。

表5-3 学士力等の伸びと教育目標他の認知の関係

	学科の教育研究上の目的・教育目標	学科の学位授与方針(ディプロマポリシー)	大学の学修成果の方針(アセスメントポリシー)
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.26**	.17*
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.32**	.24**
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.24**	.29**
	自律・自立した学習を続けていく知識	.25**	.23**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる		
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.18*	
	レポートを作成することができる	.31**	.30**
	表やグラフを用いることができる	.42**	.37**
	ITを用いて情報収集ができる	.30**	.34**
	ITを用いて過程や成果を表現できる	.28**	.29**
	多角的かつ論理的に分析できる	.35**	.32**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.25**	.27**
	他者と協調・協働して行動できる		
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.20*	.23**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.25**	.27**
キャリア形成に取り組むことができる	.31**	.23**	
創造的思考力	総合的に活用して学習活動できる	.35**	.34**
	問題の発見を楽しんだりできる	.24**	.22**
	問題について解決へ導くことができる	.33**	.32**
専門性	所属する学科の専門的な知識	.24**	.21*
	所属する学科の専門的な技術や技能	.23**	.22**
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.18*	.25**
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.19*	.25**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.29**	.29**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.23**	.34**

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

9. 学びの充実度と学士力等の伸展の関連

学士力等の伸びと学びの充実度との関連について表6に示す。特に.40を超える相関係数を斜体で示した。全体的に正の関係が示されているが、特にPBLで感じる充実度と汎用的技能の伸び、専門性の向上、教育目標の達成との関連が強く示され、大学生活全般での充実度が他者との関わりに関する力や意欲の向上と関係していることが示された。

表6 学士力等の伸びと学びの充実度との関係

		アクティブラーニング	PBL	小人数教育	キャリア教育	ゼミ	大学生活全般
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.27**	.31**	.18*	.18*	.38**	.34**
	人類の文化 社会と自然に関する知識	.32**	.38**	.21*	.25**	.23**	.19*
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.31**	.33**		.21*	.27**	.36**
	自律・自立した学習を続けていく知識	.44**	.37**	.20*	.19*	.33**	.42**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.24**	.31**	.20*		.35**	.46**
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.38**	.37**	.20*	.22*	.29**	.47**
	レポートを作成することができる	.33**	.43**	.28**	.39**	.35**	.31**
	表やグラフを用いることができる	.39**	.53**	.26**	.25**	.36**	.32**
	ICTを用いて情報収集ができる	.34**	.41**	.24**	.28**	.29**	.18*
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.46**	.55**	.31**	.38**	.26**	.22*
	多角的かつ論理的に分析できる	.38**	.48**	.35**	.21*	.35**	.31**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.39**	.34**	.25**	.21*	.34**	.38**
	他者と協調・協働して行動できる	.35**	.30**	.29**		.32**	.50**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.19*	.36**	.20*		.30**	.36**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.17*	.30**	.33**	.26**	.32**	.30**
創造的思考力	キャリア形成に取り組むことができる	.38**	.39**	.26**	.29**	.19*	.27**
	総合的に活用して学習活動できる	.31**	.37**	.31**	.29**	.28**	.28**
	問題の発見を楽しんだりできる	.20*	.33**	.24**	.19*	.31**	.31**
専門性	問題について解決へ導くことができる	.28**	.40**	.29**	.27**	.37**	.37**
	所属する学科の専門的な知識	.35**	.43**	.24**	.24**	.33**	.47**
	所属する学科の専門的な技術や技能	.37**	.47**	.28**	.23**	.37**	.56**
教育目標	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.33**	.44**	.28**	.25**	.30**	.42**
	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.29**	.49**	.26**	.19*		.31**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.34**	.47**	.23**	.24**	.29**	.44**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.26**	.37**	.20*		.20*	.38**

注1 :有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

10. 活動時間と学士力等の関連

学士力等の伸展と統計的に有意に関連が示された諸活動は表7の通りであった。特に「授業・予復習以外の学習」にかかる時間が学士力の「汎用性技能、創造的解決力」の側面と正に関連していることが示された。またキャリア形成活動が「態度志向性、創造的解決力」の側面と正に関連していることも示された。

表7 学士力等の伸びと活動時間の関係

		授業出席	授業の予復習	授業・予復習以外の学習	部活・サークル	ボランティア	アルバイト・仕事	時事問題等のチェック	キャリア形成活動
知識・理解	多文化・異文化に関する知識		.21*	.175*					
	人類の文化・社会と自然に関する知識		.27**	.30**				.20*	.20*
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識								
	自律・自立した学習を続けていく知識		.28**	.24**					
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる		.26**	.27**					
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる			.26**					
	レポートを作成することができる		.23**	.32**					.25**
	表やグラフを用いることができる			.28**					
	ICTを用いて情報収集ができる			.19*					
	ICTを用いて過程や成果を表現できる			.19*					
	多角的かつ論理的に分析できる		.21*	.25**					
態度・志向性	自らを律して行動できる			.17*					.22**
	他者と協調・協働して行動できる		.19*	.23**					
	良心と社会の規範にしたがって行動できる								
	社会の一員として、積極的に関与できる								.24**
	キャリア形成に取り組むことができる			.20*					.35**
創造的 思考力	総合的に活用して学習活動できる			.25**					.28**
	問題の発見を楽しんだりできる		.21*	.28**			.18*		.28**
	問題について解決へ導くことができる			.32**					.27**
専門性	所属する学科の専門的な知識		.26**	.20*					
	所属する学科の専門的な技術や技能		.18*						
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観								
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標								.22*
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる		.20*	.25**					.20*
	教員・友人と意欲的に関わることができる		.18*	.27**					

注1:表中、数値はスピアマンの順位相関係数

注2:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

11. 学びの充実度と学士力等の伸びの関連

学士力等の伸びと学びの充実度との関連について表8に示す。特に.40を超える相関係数を斜体で示した。総じて正の関連が示されているが、学習支援及び経済支援が特に学士力等の伸びと全体的に正の関連を示していた。

表8 学士力等の伸展と教育への満足度との関連

		学習支援	経済支援	キャリア形成支援	学生生活支援	学んでいること
知識・理解	多文化・異文化に関する知識	.23**	.22**	.18*	.20*	.24**
	人類の文化・社会と自然に関する知識	.21*	.25**	.19*		
	社会や人生上の問題の解決に生かせる知識	.38**	.25**	.31**		.40**
	自律・自立した学習を続けていく知識	.42**	.35**	.26**	.26**	.43**
汎用的技能	話をよく聞き伝えたいことを表現できる	.47**	.40**	.29**	.32**	.51**
	尊重しながらコミュニケーションをとることができる	.46**	.38**	.28**	.32**	.46**
	レポートを作成することができる	.42**	.26**	.27**	.28**	.39**
	表やグラフを用いることができる	.36**	.28**	.18*		.38**
	ICTを用いて情報収集ができる	.32**	.22*	.30**		.32**
	ICTを用いて過程や成果を表現できる	.39**	.22**	.32**	.25**	.33**
	多角的かつ論理的に分析できる	.36**	.36**	.28**	.23**	.39**
態度・志向性	自らを律して行動できる	.42**	.32**	.20*	.23**	.37**
	他者と協調・協働して行動できる	.43**	.30**	.22**	.24**	.46**
	良心と社会の規範にしたがって行動できる	.47**	.37**	.24**	.30**	.49**
	社会の一員として、積極的に関与できる	.34**	.31**	.25**	.22*	.37**
	キャリア形成に取り組むことができる	.31**	.32**	.33**	.24**	.32**
創造的 思考力	総合的に活用して学習活動できる	.35**	.28**	.25**	.19*	.31**
	問題の発見を楽しんだりできる	.30**	.27**	.18*	.20*	.24**
	問題について解決へ導くことができる	.36**	.32**	.29**	.22**	.36**
専門性	所属する学科の専門的な知識	.50**	.47**	.35**	.35**	.56**
	所属する学科の専門的な技術や技能	.46**	.38**	.35**	.32**	.53**
	所属する学科が目指す態度・志向性や倫理観	.47**	.43**	.36**	.26**	.48**
教育目標	所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標	.37**	.35**	.26**	.20*	.37**
意欲	学習に意欲的に取り組むことができる	.51**	.40**	.32**	.31**	.58**
	教員・友人と意欲的に関わることができる	.36**	.25**	.20*	.25**	.37**

注1:有意な相関係数のみ掲載

* p<.05 ** p<.01

【資料1 学士力達成度・専門性の向上・教育目標の達成・意欲の伸びの項目】

(1) 知識・理解

- 1) 2年次進級時に比べ、さまざまな文化や自分とは異なる文化の立場の人の考えや気持ち、行動をとらえるようになり、多文化・異文化に関する知識の理解ができた
- 2) 2年次進級時に比べ、歴史的文化的な事象や社会の事象、自然の事象について、その意味とその事象が起きた理由と自分との関連をとらえるようになり、人類の文化・社会と自然に関する知識の理解ができた
- 3) 2年次進級時に比べ、将来に出会う社会の問題や人生上の問題の解決に生かせる知識を学んだ
- 4) 2年次進級時に比べ、自律・自立した学習（自ら進んで、到達目標と学習計画を立て、実践し、自己および他者による点検や評価を行い、改善と見直しをするという取り組み）をこれから続けていくための知識や情熱を獲得した

(2) 汎用的技能

- 5) 2年次進級時に比べ、他人の話をよく聞き自分の伝えたいことをわかりやすく表現できるようになった
- 6) 2年次進級時に比べ、自分とは異なる意見を持つ人と互いを尊重しながらコミュニケーションをとることができるようになった
- 7) 2年次進級時に比べ、証拠に基づいてわかりやすく説得力のあるレポートを作成することができるようになった
- 8) 2年次進級時に比べ、表やグラフを用いて分析し、理解し、表現することができるようになった
- 9) 2年次進級時に比べ、インターネットなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決のための情報収集ができるようになった
- 10) 2年次進級時に比べ、プレゼンテーションソフトなどの情報通信技術（ICT）を用いて問題解決の過程や成果を表現できるようになった
- 11) 2年次進級時に比べ、ものごとを多角的かつ論理的に分析できるようになった

(3) 態度・志向性

- 12) 2年次進級時に比べ、時間の管理や健康管理、感情や欲求の適切なコントロール、状況に応じた適切な対処行動など、自らを律して行動できるようになった
- 13) 2年次進級時に比べ、他者と協調・協働して、目標の実現のために、問題を共有し、方向性を示し、行動できるようになった
- 14) 2年次進級時に比べ、自らの良心と社会の規範やルールにしたがって行動できるようになった
- 15) 2年次進級時に比べ、社会の一員としての意識を持ち、人びとの幸せや地域・社会の発展のために積極的に関与できるようになった
- 16) 2年次進級時に比べ、自分をよく理解し、将来の展望を描き、キャリア形成に取り組むことができるようになった

(4) 統合的な学習経験と創造的思考力

- 17) 2年次進級時に比べ、実際場面で出会う課題について、これまで獲得したさまざま知識と理解、汎用的技能、態度・志向性を総合的に活用して学習活動できるようになった
- 18) 2年次進級時に比べ、社会を広く見わたし疑問に思ったり問題の発見を楽しんだりできるようになった
- 19) 2年次進級時に比べ、発見した問題について情報を集め、討議や調査などを行い、ねばり強く分析・整理して解決へ導くことができるようになった

(5) 専門性

- 20) 2年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な知識が身に付いた

21) 2年次進級時に比べ、所属する学科の専門的な技術や技能が身に付いた

22) 2年次進級時に比べ、所属する学科が目指す専門職のもつべき倫理観が身に付いた

(6) 教育目標

23) 2年次進級時に比べ、所属する学科が目指す教育研究上の目的や教育目標に近づいた

(7) 意欲

24) 2年次進級時に比べ、大学での学習に意欲的に取り組むことができるようになった

25) 2年次進級時に比べ、大学で教員・友人と意欲的に関わるできるようになった